

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立第四中学校）

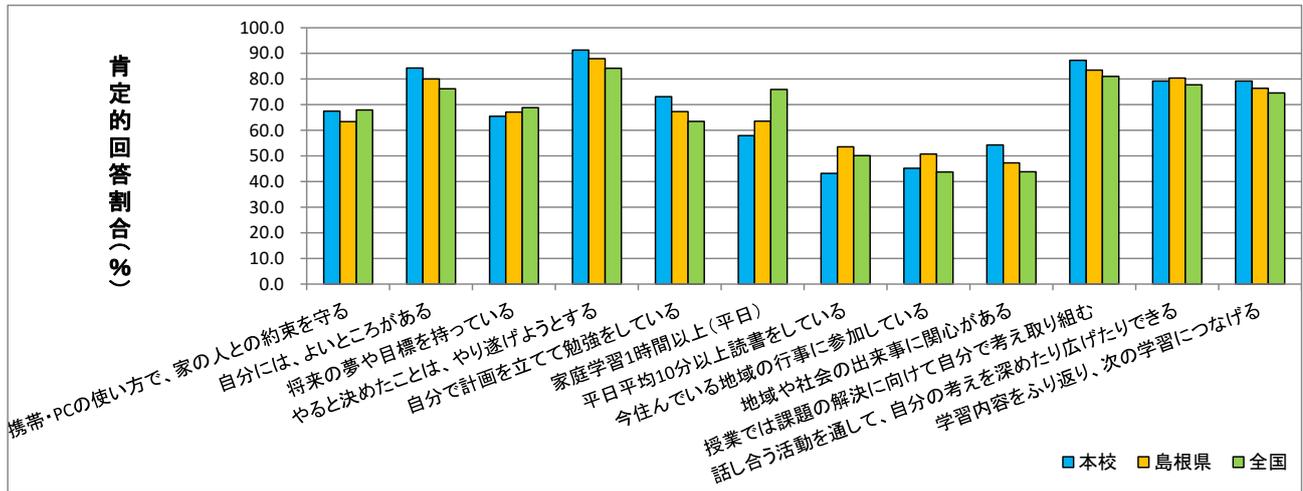
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策
国語	○「話すこと・聞くこと」が全国、県平均を上回っており、授業における話し合い活動を取り入れていることが成果につながっていると考えられる。 ●「読むこと」は全国、県の平均を下回っており、問題を読み取る力の獲得が不十分であると考えられる。	・学習や学級での活動で、引き続き話し合い活動を継続し、人の話を聞き、自分の考えを言葉で発することができる力の育成を図る。 ・国語の授業を中心に文章を読む時間の設定する。 ・図書館利用促進と朝読書時間の導入をととして、読書の習慣化を目指す。
数学	○「式と計算」は県平均を上回っている。朝学習で基礎基本の定着を図っておりその成果が表れていると考える。 ●「図形」「資料の活用」は全国・県平均を下回っている。図形、グラフ等から答えを読み取る力が不十分であると考えられる。	・毎日の朝学習を継続し、図形、資料の読み取りの基本的な問題を繰り返し行うことで基礎基本の定着を図る。 ・授業の中で教え合いや周囲に解答を説明する機会を設けることで理解を深める。

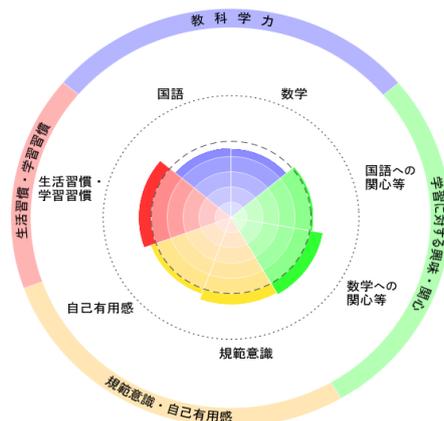
(2)生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策
	○自分の将来への展望や自己理解は比較的高いことから、学年ごとにキャリア教育を計画的に行っている成果と考える。 ●家庭学習の時間が少ないことから家庭学習の習慣化が不十分である。 ●読書時間が平均を大きく下回っており、読み取る力の獲得、定着に影響が出ていると考える。	・キャリア教育を学年、発達段階に応じて系統的に実施する。 ・家庭学習の方法説明や強調週間の設定を通して、習慣化を目指す。 ・図書館利用を促進するとともに強調週間を設定し、学校家庭における読書時間の増加を図る。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・学校の様々な場面において、周囲との関わり方(人の話を聞く、自分の思いを伝える等のコミュニケーション力)を学ぶ機会を設定する。

【受検者数】 200名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。